

全国88,000社の整備工場とNGP組合員200拠点を結ぶホットライン

2005.12月号

NIPPON GOOD PARTS

NGP NEWS

No.176

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合が第1回通常総会を開催

新プロジェクト「MS50」が始動!!

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は去る10月21日、東京都内の品川プリンスホテルにて第1回通常総会を開催しました。

昨年、自動車リサイクル業界では初となる事業協同組合へと生まれ変わったNGPは今年の第1回通常総会におきまして、更なる飛躍を目指し、新たにマーケットシェア拡大に向けた事業戦略「MS50」をスタートすることとなりました。

また、総会の冒頭にはNGPグループとしての最後の平成16年度活動報告が行われ、事業協同組合への完全移行が完了したことが報告されました。



一般ユーザーへのPR活動を強化し、マーケットの拡大を目指す!!



青木勝幸理事長

この平成16年度は事業協同組合として、新たなスタートを切った一年であり、自動車リサイクル法完全施行に向けての対応や独自開発によるリサイクル部品の流通在庫システム「新NGPシステム」の「本格稼働」、また全国規模での組合員拡大と組合組織の強化、基盤づくりに注力してきました。

続く平成17年度は自動車リサイクル法など順法精神に則った事業化の推進を行い、新NGPシステムの安定した運用を促進して、自動車リサイクル部品の供給率アップをこれまで以上に図っていくことなどが、各担当委員会からこの総会で

発表されました。

通常総会で挨拶に立った青木勝幸理事長は「今期はNGP協同組合が新たにスタートいたしました。スタッフ、組合員の皆様のご尽力により、円滑な組織運営ができました。また、今年1月からは自動車リサイクル法もスタートし、私どもは廃掃法からですと約15年、関連法の勉強をしてきましたが、なかなかその意見が反映されていないという状況があります。それは、まだまだ私どもの業界が未熟で認識されていないということだと思います。その中でNGPの組合組織化は様々なところで、私どもが考える以上に期待されています。その中で、「MS50」と「くるマック」という新規事業をスタートさせ、リサイクル部品の元となる使用済自動車を確認し、リサイクル部品を安定供給する仕組みをエンドユーザーを含めて構築していくことで、業

界に貢献し、責任をもってリードしていきたいと考えております。」と抱負を語りました。

また、通常総会後には今年度からはNGP協同組合としての新規事業として自動車リサイクル部品マーケットにおけるシェア50%、総売上高500億円を目指すプロジェクト「MS50(マーケットシェア50%)」キックオフミーティングが開催されました。

具体的な取り組みとして、リサイクル部品の生産に必要な使用済自動車確保のため新たに一般ユーザーをターゲットとした廃車見積り・買い取りサービス「くるマック」の概要発表やNGPのホームページとリンクした新サービスの提案などNGP協同組合が今後、展開していく自動車のリサイクルに関する様々なサービス提供の新しい構想が発表されました。

MS50の達成に向けて各委員会がスローガンと事業計画を発表

定期総会では、NGP協同組合の各委員会から平成17年度のスローガンと事業計画が発表されました。

MS50推進室	支部長会	組織委員会	教育情報委員会・教育指導委員会
スローガン リユース部品業界の構築を目指し、広く一般社会から認知される為の組織作り	スローガン MS50達成の推進強化及び9支部の更なる強化	スローガン MS50達成へ向けて組合員200社	スローガン 蘇らそう、NGP魂(スピリット)
MS50達成のための各部への支援及び提言 リユース部品の今後のありかたの調整 資源リサイクルに関する組合間の取り組み改革 各研修への支援等(長谷川利彦MS50推進担当理事)	有意義な支部長会の開催 各支部でのMS50に向けての勉強会の実施 支部定例会・支部長会・委員会・理事会の理解と報告の徹底 各委員会との連携強化(山本善範支部担当理事)	新規加入組合員の拡大 他団体との連携強化 各委員会との連携強化(新規加入組合員フォロー) 空白地域の組合員補充(中村昌徳組織委員長)	第18回経営者研修会、中級営業マンマニュアル作成会議、第9回・第10回・第11回中級フロントマン・生産管理者・営業マン研修会、教育担当指導委員・初級研修講師会議、第12回基礎研修会、第10回初級営業マン研修会など各研修会を開催(佃正人教育情報委員長、近藤啓継教育指導委員長)
システム委員会	商品管理委員会	総務委員会	渉外委員会
スローガン システムの早期安定	スローガン NGPブランドの流通拡大	スローガン 更なるアクティブサポートの推進	スローガン clemacイノベーション!
システムバージョンアップ 新機能理解度向上サポート(不定期メール配信) 電子manifest連携システムの調査開発 各社のネットインフラ整備(Kメール・IP電話等)、子機電話の提供(津田隆二システム委員長)	商品定義・マニュアルの整備 NGP商品定義・マニュアルの他団体への提供(リサイクルパーツの標準化に向けて) システム賛助会員調査 棚卸の案内 システムバージョンアップへの協力(中村俊康商品管理委員長)	NGP20周年記念式典・総会の準備・運営 NGP協同組合ホームページの更新・管理 情報伝達強化の為のグループウェアの開発 各種イベントへの出展により、ユーザーへの認知度向上を図る NGP協同組合パンフレットの作成 NGPニュースの作成 理事・各委員会への広報協力・支援 各メディアを用いた広報活動など(杉之間大和総務委員長)	MS50達成支援 「くるマック」ブランドの確立 組合員への車両入庫の拡大支援 ホームページの充実、広告宣伝によるユーザーへのアピール くるマック戦略に伴う販促ツールの提供 対外組織活動の充実 ELV機構と販売団体協議会との連携強化 行政への提言及び意見交換 20周年記念式典の企画立案(永田則男渉外委員長)

多くのご来賓をお迎えして定期総会懇親会を開催

NGP協同組合の第1回通常総会後に開催された定期総会懇親会には、行政関係をはじめ、関連業界などから多くのご来賓の方々をお迎えして盛大な宴が催されました。

懇親会の冒頭にご挨拶をいただいた経済産業省製造産業局自動車課の宮本昭彦企画官からは、NGPの協同組合化によって自動車リサイクル業界の取りまとめ役としての活躍を今後も期待するとともに新しくスタートした自動車リサイクル法を円滑に進めていくために行政との橋渡し役としてもご協力をお願いしたいとの激励の言葉をいただきました。

また、多くのご来賓の方からもご祝辞をいただき、NGPの自動車リサイクル業界におけるリーダーシップへの期待を改めて感じるものとなりました。

第18回 NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 懇親会



懇親会では今期、新しく組合員になった13社の代表も登壇してご挨拶

挨拶いただいたご来賓の方々



経済産業省 製造産業局自動車課
宮本昭彦 企画官



あいおい損害保険株式会社
依藤 司 上席常務役員



日本自動車車体整備協同組合連合会
丸山憲一 会長



有限責任中間法人日本ELVリサイクル機構
酒井清行 代表理事

MS50キックオフミーティングを開催!!



概要を説明する長谷川利彦MS50推進担当理事

NGP協同組合は通常総会終了後、引き続き“MS50”キックオフミーティングを開催しました。“MS50”とは「マーケットシェア50%」を意味し、現在の自動車リサイクル部品市場においてNGPグループ全体でマーケットシェア50%を確保し、500億円を達成を目指すための新規事業戦略の総称になります。

NGP協同組合では、自動車リサイクル法施行以後、使用済自動車の減少、部品取り車の仕入れ価格の高騰、中古扱い・輸出扱いの車の増加が顕在化してきている背景とリサイクル部品の啓蒙不足、閉

鎖的業界体質、他業種とのコラボレーションの低迷などから自動車リサイクル部品市場の伸び悩みを危惧し、全組合員へのアンケートを実施して、“勝ち残り策”の構築に向けたアクションとして“MS50”戦略を打ち出しました。

まずNGP協同組合内に“MS50推進室”（長谷川利彦MS50推進担当理事）を立ち上げ、2か年主要計画として、2007年8月までにリサイクル部品市場におけるマーケットシェア50%、今期中に売上高400億円、来期には売上高500億円、リサイクル部品の生産金額を現在の月8億円から10億円まで引き上げていくという数値目標を設定しました。

そのためには現在のリサイクル部品市場における「NGPブランド」の確立とリサイクル部品供給力および品質面において業界ナンバーワンの評価を獲得することで目標達成を目指し、各組合員個社が全力でMS50達成イメージの明確化ができるように推進室をはじめNGP協同組合の各委員会がサポートしていきます。

くるマックによるイメージ戦略で エンドユーザーにも働きかけ

また“MS50”では、これまで自動車リサイクル業界とは直接の関わりを持つことがなかったエンドユーザーにもマーケット拡大の施策として、直接働きかけを行っていきます。

それが11月1日よりスタートした「くるマック」です。まずは「廃車の見取りサービス」と「廃車の引き取りサービス」を展開し、NGP本部にコールセンターを設置し、エンドユーザーから見取りや引取りの依頼があった場合は、近隣の「くるマック店」

（NGP組合員）を紹介して、三者間通話によるサービスシステムを構築しました。

今後は、“くるマック”を通して、エンドユーザーに自動車リサイクル部品の啓蒙促進にも繋げ、現在、NGPのリサイクル部品を使って修理をしてくれる「リサイクル部品活用推進工場」の紹介サービスなどの展開も行っていきます。



“くるマック”の具体的展開を解説する大橋岳彦渉外担当理事



“くるマック”のキャラクター、くまの「マック」がデザインされたのぼり旗



MS50戦略はインターネットなどITも活用してアピールしていく

定例記者会見を開催!! 青木理事長が新規事業“MS50”発足について語る

NGP協同組合の首脳陣は総会后、恒例となっている記者会見を開催いたしました。

会見では、各紙記者から総会で発表されたNGPの新規事業戦略“MS50”スタートまでの経緯と今後の方向性などについての質問が多く寄せられました。

青木勝幸理事長は記者会見で、「今回の総会では、自動車リサイクル法元年ということもあり、我々、NGP組合員も“適正処理”という法令遵守を徹底してきました。しかしながら、我々の扱う使用済自動車の流れは、法施行以後大きく変化し、我々メンバーもオークションを介して部品取り車両を仕入れるというようになっています。

自動車リサイクル法の根幹でもある“自動車の循環型社会への対応”を考えた上で、今のこの様な状態が“果たして本当によいのだろうか?”という疑問から、もっと自動車リサイクル業界の現状を一般ユーザーにも知ってもらうために今回の

“MS50”や“くるマック”の事業構想を約1年かけて計画し、今日の総会で発表し、この11月1日からスタートすることとなりました。」とMS50戦略のスタートまでの経緯を説明しました。

また、青木理事長は記者から“現在、自動車のリサイクル市場に流れる廃車の数が大きく減少していること”、また“オークションへの車の流れを変えるための施策”などについての質問について語り、「今の使用済自動車の流れを変えるというのは非常に大変なエネルギーが必要であり、今の我々の力だけでは無理だと思います。ですから、自動車解体事業の全国団体であり中間法人を取得した日本ELVリサイクル機構や我々が参加している日本自動車リサイクル部品販売団体協議会などとも連携を密にして、今の自動車リサイクル業界、特に現場の状



記者からの質問に答える青木勝幸理事長とNGP首脳陣

況をきちんとした情報として行政の方に報告し、その中で、我々と行政が一体となっていて話し合っていく必要があるのではないか?と考えています。それには我々の業界が行政や関連業界、更には一般のユーザーの方々にも信頼されるような業界となっていくことが重要だと考えます。それが進めば、我々の携わる自動車リサイクルの仕事が、今まで以上にやりやすい環境ができてくるのではないかと思います。」と今の業界環境に大きな危機感を募らせている一方で、今後のNGP協同組合の方向性を示しました。

